

応急手当講習会 報告

さいたま市山岳連盟
遭難対策委員会

日時 : 平成 22 年 7 月 11 日(日) 13:15~17:30

場所 : 桜木公民館レクリエーションホール

講習種別 : 山岳救急講習会

受講人数 : 43名

講師 : いさお秀彦氏 (日本山岳協会遭難対策委員会 医科学委員会常任委員)

<講習内容>

1. 事故の傾向/予防と対策 (講義)
2. けがの手当て/全身観察、ショックの評価 (講義)
3. けがの手当て/止血法 (講義、実技)
4. けがの手当て/骨折、捻挫時の固定法 (講義、実技)
5. やまで起きやすい障害 (講義)

<まとめ>

○講習の内容

山で起きやすい事故によるケガ等に対する応急手当の方法について、講義と実技講習により学んだ。

けがの手当ての実技では、負傷者の搬送時の動かし方、固定法、ザックを連結させた担架による搬送を学んだほか、伸縮包帯を用いた止血法、サムスプリントを用いた首や足首の固定法、ズボンとストックを組み合わせての足(ひざ)の固定法などを学んだ。また、ザックとハーネスを用いての負傷者の担ぎ方を学んだ。

○感想

実際に山でケガ人が出た場合に、講習会で学んだことを冷静に実行できるかが大きな課題となるため、最近の講習会では、事故時のケガや出血を再現し、事故の状況をなるべくリアルに体感してもらうよう図られているようです。今回の講習でも、負傷者役には、傷口や血糊を付けるなど(ムラージュ)の工夫がなされていたほか、缶コーヒー1本分を撒いて、これ実際の出血にみたてて、出血量を予想したりといった工夫がされていました。

応急手当にしても遭難救助にしても実際には殆ど実践することはない場合が多い技術ですので、その分、定期的な実技練習が必要となってきます。各会におかれましては、繰り返しの実技練習により、応急手当を身に付けてゆかれるよう取り組みをお願いします。

○反省、次回への課題等

講習内容、受講者ともに多い中で、講習時間が半日では短かった。

以上